

平成 30 年度

# 授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

## 目 次

国語	1
社会	2
数学	3
理科	4
音楽	5
美術	6
保健体育（男子）	7
保健体育（女子）	8
技術	9
家庭	10
英語	11

平成30年度【国語】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習得状況に個人差がある。小学校での既習漢字の読み書きを確実にできるようにさせる。</li> <li>作文の書き出しが遅い生徒が目立つ。1年時から継続して書くことの指導を行い、原稿用紙になれさせる。</li> <li>伝統的な文化に加え、国語の授業をとおしてオリンピック・パラリンピックへの理解を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テストを定期的に行い、学習の習慣をつける。名文の視写を継続して行い、字を丁寧に書く習慣をつけさせる。</li> <li>意見文・鑑賞文・創作など、いろいろな方法で興味をもたせる作文指導をする。</li> <li>百人一首や名文の暗唱、読書指導などをとおして伝統的な言語文化に親しませる。オリンピック関連の新聞記事などを活用した授業を行う。</li> </ul>	
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や文法、原稿用紙の使い方など、基礎的・基本的な学習内容を定着させられるように学習習慣を作っていく。</li> <li>「話すこと・聞くこと」での表現力を伸ばしたい。スピーチや群読などの工夫を取り入れ、人前で堂々と話す力をつけさせていく。</li> <li>伝統的な文化に加え、国語の授業をとおしてオリンピック・パラリンピックへの理解を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「10分で100字」「15分で200字」時間と字数の目標を意識して書く練習を取り入れるとともに、書き方の型に沿って書く練習をさせる。</li> <li>学期に1～2回は個人またはグループで発表する場を設定する。また、今年度は、学習発表会での発表を目標に群読に取り組みさせている。</li> <li>百人一首や名文の暗唱、読書指導などをとおして伝統的な言語文化に親しませる。オリンピック関連の新聞記事などを活用した授業を行う。</li> </ul>	
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書き取りなど、基礎的な学習内容を定着させる必要がある。</li> <li>「話すこと・聞くこと」の分野に弱点がある。人前で堂々と話す力を確かなものにする。</li> <li>時間内に作文を書ききる練習をさせる。書き出しに時間がかかる場合もあるので、反復練習で書くことに慣れさせる。</li> <li>伝統的な文化に加え、国語の授業をとおしてオリンピック・パラリンピックへの理解を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テストを定期的に行い、学習の習慣をつける。</li> <li>グループ内発表からクラス全員の前での発表へと、段階を追って練習させる。また、話し合いを通して自分の意見をもつ・述べるようにさせる。</li> <li>時間と条件・読み手の存在を意識させながら書く練習をさせる。</li> <li>和歌・俳句・近代の文学作品などの学習をとおして文学史や伝統的な言語文化に親しませる。オリンピック関連の新聞記事を活用し、メディアリテラシーの授業を行う。</li> </ul>	

平成30年度 〔社会科〕授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

学年	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 小学校での既習の基礎・基本は概ね理解できている。</li> <li>② 資料の読み取り、活用力が不十分である。</li> <li>③ 発言、発表に意欲的である。</li> <li>④ プリント、レポートの仕上げに差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地理と歴史の融合性を取り入れた授業で、理解の両方向性を高める。</li> <li>② わかりやすい資料、発見のある資料を用意する。</li> <li>③ さらに発言の機会を設ける。</li> <li>④ 提出期間に余裕を持たせ、丁寧に仕上げさせる。</li> </ul>	
2 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地理と歴史で関心に差が見られる。</li> <li>② 指示により資料を活用できるが、自ら選び出す力が不十分である。</li> <li>③ 女子の発言、発表が少ない。</li> <li>④ プリント、レポートの仕上げに差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地理と歴史を融合させた授業を行う。</li> <li>② 学習に必要な資料の探し方、使い方を指導する。</li> <li>③ 指名することで発言の機会を設け、自主的な発言に結びつかせる。</li> <li>④ プリント、レポートの仕上げ方を指導する。</li> </ul>	
3 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 既習の地理、歴史の知識が不十分である。</li> <li>② 公民を学習しつつ、できるだけ地理、歴史の学習と関連させる。</li> <li>③ 発言、発表は積極的である。</li> <li>④ 学習、試験勉強、受験勉強に資料、プリントなどの活用が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 定期的に重要語だけでも復習するよう指導する。</li> <li>② 入試を見据えて、公民を中心に三分野の学習を展開する。</li> <li>③ 今後も継続できるように励ます。</li> <li>④ 資料、プリントの保管、活用を指導する。</li> </ul>	
<p>※三学年を通じて、オリンピック・パラリンピックに関係する国、地域歴史、社会、世相などを学習する。</p>			

平成30年度【数学】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

学年	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業へ意欲的に取り組んでいるが、学習内容の定着度は個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算に時間がかかり、課題を多くこなせない生徒がいるので、既習事項も含めて反復練習をたくさん取り組ませる。</li> <li>興味・関心をひく教材を活用し、ただ答えを求めるのではなく、答えまでの道筋や答えを求める必要性を重点において授業を展開する。</li> </ul>	
2 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して学習する習慣が身につけていない生徒、丁寧に文字や式が書けない生徒が数名いる。</li> <li>一方、数学的思考力や数学的技能が高い生徒もいるので、どの生徒の学力も伸ばす授業の工夫が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な内容や復習からスモールステップでテンポ良く授業を展開する。</li> <li>興味・関心をひく内容を入れて説明をする。また、1つの課題ごとに、評価をして達成感をもたせ、課題解決意欲をもたせる指導の工夫をする。生徒の状況により、個別指導や適切な課題を提示するなど一人一人に適した指導を組み入れていく。</li> </ul>	
3 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項が身につけていないために学習内容が定着しない生徒がいる。</li> <li>数学的思考力を伸ばす授業の工夫が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始めに確認テストを実施し、既習事項の定着状況を確認する。できない問題は繰り返し確認テストを実施して学習内容の定着を図る。家庭学習として取り組みやすい復習課題を提示する。</li> <li>発展的・応用的な問題を取り扱い、思考力を伸ばす工夫をしていく。</li> </ul>	

平成30年度【理科】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

学年	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1 年 生	① 仮説をたてたり、実験のデータから規則性を導きだすような場面では自分の考えを表現することができない生徒が多い。 ② 小学校で履修した学習内容が充分定着していない生徒が半数以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ノートの代わりにプリントを活用する。レポートの考察欄については、自分の意見を的確に表現できるよう設問を工夫する。</li> <li>• 実験の中では一人一人に役割を持たせ、その責任を果たせるようにする。</li> </ul>	
2 年 生	① 理科への興味関心が高く知識もあるが、仮説をたてたり、データから規則性を導きだすような場面では自分の考えを表現することができない生徒が多い。 ② 基礎的な計算力が身についておらず、単位の理解に時間を要する生徒がいる。 ③ 実験操作の中で、生活経験不足が感じられる生徒がいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 理科への興味関心をさらに伸ばしていくためにも、実験は多く取り入れ、視聴覚教材を活用しながら進めていく。</li> <li>• 夏休みのワークに1学年の学習内容をとりあげ、確認テストや定期考査に出題し復習することで基礎学力の定着を図る。</li> <li>• ノートの代わりにプリントを活用する。レポートの考察欄については、自分の意見を的確に表現できるよう設問を工夫する。</li> </ul>	
3 年 生	① 作業能力は高く、実験には意欲的に取り組んでいるが、手順を間違える生徒もいる。 ② 1・2学年で履修した学習内容が充分定着していない生徒が半数である。 ③ データから規則性を導きだすような場面では、消極的になる傾向がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実験前に、目的・手順についてしっかりと確認し、実験は段階的にすすめ、操作方法については視覚教材を活用しながら具体的に指導していく。</li> <li>• 夏休みのワークに1、2学年の学習内容をとりあげ、確認テストや定期考査にも出題し復習する。また、3年間の総まとめ教材を使い、12月からは計画的にすすめ、基礎学力の定着を図るとともに、都立入試対策とする。</li> <li>• ノートの代わりにプリントを活用する。レポートの考察欄については、自分の意見を的確に表現できるよう設問を工夫する。</li> </ul>	

平成30年度 音楽科授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

学年	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱活動には、意欲的に取り組んでいる。技術面では、男女ともに声量がやや小さく、地声になりがちである。男子の変声も個人差が大きい。</li> <li>・リコーダーでは、運指、タンギング等に技能の差が見られる。</li> <li>・基本的な音符や休符、音楽用語の読み方や意味に対する理解が定着していない傾向にある。</li> <li>・鑑賞では、興味・関心をもって学習に取り組んでいる。曲から受ける印象を、自分の言葉で表現する活動が浅く終わってしまいがちである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声練習を通して、頭声発声への移行に取り組む。平易な合唱曲を数多く歌うことで、無理のない音域で歌唱し、徐々に声量を増やしていくと共に声を合わせることへの充実感を味わわせる。</li> <li>・2部合奏の旋律に親しみやすい平易な曲を選曲し、毎時間、短時間演奏する機会をもつ。</li> <li>・音符や休符、音楽用語等の基礎基本が身につくようにワークシートによって、繰り返し学ばせる。</li> <li>・特徴的な部分を中心に楽曲のおもしろさや美しさを感じ取らせ、楽曲を構成する諸要素に気付かせるようにする。</li> </ul>	
2 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子生徒の人数が多いので、変声期の生徒の割合も高く、確実な音程・ハーモニーで歌唱しにくい状態にある。また、合唱形態にも工夫が必要である。しかし、全体的には前向きな気持ちをもって歌唱活動に取り組んでいる。</li> <li>・お互いの声を聴き合うことを意識し、より表現力を高める必要がある。</li> <li>・基本的な音符や休符、音楽用語等の定着には今一步の感があり表現力には結びついていない。</li> <li>・「鑑賞」では、楽曲から感じ取ったことをより自分の言葉で表現し、充実した内容の感想につなげていく力が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変声期にかかっている生徒には、無理をしない柔らかい声を出す発声を心がけさせる。</li> <li>・高音部を男女混合で二部合唱を行うなどして、お互いの多彩な音域の歌声を聴き合い、ハーモニーの美しさを味わうことで表現力を高めさせる。</li> <li>・ワークシートによって、繰り返し学ばせるとともに表現活動の手立てとしてフィードバックさせる。</li> <li>・楽曲を構成する諸要素や構造の働きによって生み出される曲の美しさや多様性を感じ取らせ、興味・関心をもって聴く活動に取り組ませる。</li> </ul>	
3 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変声期もほぼ終わり、男女共に豊かな歌声になってきているが、歌詞の意味や、演奏上の記号等を生かして曲想をさらに充実させる必要がある。男女共に、全体的には前向きな気持ちでしっかり歌唱活動に取り組むことができる。</li> <li>・音符や休符、音楽用語の定着に関しては、個人差があり、表現力の個人差にも結びついている感がある。</li> <li>・「鑑賞」では、音楽の特徴を捉え、自分の言葉で深い考察をもって感想を書く力が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞や演奏上の記号等を生かしたパート練習や合唱練習を充実させ、確実な音程のもと、発声に留意した練習に取り組ませる。そして、「合唱は耳で歌う」ということを意識させながら、ハーモニーの美しさ、響き合う歌声の素晴らしさを体感し、表現させる。</li> <li>・演奏曲に出てくる音楽記号の確認と理解(口頭、ワークシート)をとおして、より豊かな音楽表現と結びつけていく。</li> <li>・楽曲の時代背景や他の芸術との関連等、様々な角度から興味・関心をもたせ、幅広く取り組む。</li> </ul>	

# 平成 30 年度 【美術】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 多くの生徒が意欲的に作業に取り組んでいる。</li> <li>② 絵具を扱う作業も、丁寧に作業する生徒が多い。</li> <li>③ 作業内容を理解していない生徒がおり、全体に比べ遅れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業に取り組む姿勢と態度が良いので、より表現力や技術力の向上を目指す。特に技術や発想の指導において、できる限り一人一人細かな指導を机間指導により実施し、より完成度の高い作品作りを目指す。</li> <li>② より丁寧な作業を心掛けるように指導する。また、今後絵具による作業が増えるため、制服を汚さないように注意喚起する。</li> <li>③ 机間指導などで、個別に進行具合を確認し、遅れているもしくは、作業内容を理解しきれていない生徒に指導をし、作業を進めさせる。</li> </ul>	
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 意欲的に作業に取り組み、座学の学習などもしっかり取り組む姿が見られる。</li> <li>② レタリングなどの技術を効果的に使い、1年生で学習した技術を生かす事が出来ている生徒が多い。</li> <li>③ 制作の際、個人差が見られる。構想や下描きに時間がかかってしまう生徒がいる。また、構想が思いつかない生徒もいる。</li> <li>④ 話ばかりして、作業が遅れている生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒が良い作品を作れるように指導を工夫していく。一人一人に合った指導やアドバイスをを行い、より良い作品作りを目指す。</li> <li>② 今後も、1年時に習得した技術を応用しつつ、課題を進ませるように呼びかける。</li> <li>③ 作業が遅れている生徒にアドバイスや指導を行い、作業を効率良く進ませる働き掛けを行う。</li> <li>④ 作業を進ませるように指導する。それでも改善できない場合は担任と連携して対応する。</li> </ul>	
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>① これまでの絵画技術を生かした作品作りが出来ている生徒と、十分ではない生徒がいる。</li> <li>② 発想と構想を形に出来ている生徒と、発想が思いつかない、思うように手が動かない生徒が見られる。</li> <li>③ 作業の進み具合に個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 技術等が不十分な生徒に対し、机間指導でまた、技術のポイントを過去を振り返らせながら指導を試みる。</li> <li>② 様々な作品を紹介し、多種多様な表現に関心を持たせ、制作に生かせるような授業を展開させ、構想が思いつかない生徒には、個別で作例から自分の作品に生かせる部分を取り上げてもらい自分のアイデアの一部にし、自分の作品に反映させるようにする。</li> <li>③ 全体の作業の進行具合を確認し、作業時間を増やすか見当する。また、的確な指導や説明をし、作業時間に生かさせる。</li> </ul>	



平成30年度 【保健体育（男子）】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

学年	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いにアドバイスをしながら、学習に取り組む姿勢が見られてきたが、質の高いアドバイスをし合うことが課題である。</li> <li>・運動を楽しむことはできるが、本時の目標や自己の課題を意識して学習に取り組むことができない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物や教師や生徒の模範演技を見せながら「良い動き」と「悪い動き」はどのような違いがあるのか生徒一人一人に正確に理解させる。</li> <li>・学習カードやノートを活用しながら、目標や課題を振り返ることができるようにする。そうすることで、次の授業に見とおしをもたせる。</li> </ul>	
2 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動時と待機時のメリハリをつけることができない生徒がいる。そのため、指示や説明を聞いてから行動を開始するまでに時間を要する。</li> <li>・生徒の運動技能にかなりの差がある。そのため、指示を出してから全員が運動を終えるまでに時間を要する。</li> <li>・自己の課題を把握して、課題意識をもって練習に取り組むことができない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示や説明を聞くときは「静かにする」「先生の顔を見る」などを指導し、集中させる。また、生徒が見通しをもてるように学習の流れを板書する。</li> <li>・運動技能の低い生徒には個別の練習場所を設け、一人一人の能力に応じた練習ができるように配慮する。</li> <li>・導入に課題の確認をし、まとめで振り返りをする時間を確保することで生徒に課題意識をもたせる。</li> </ul>	
3 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまくできない生徒に対して、アドバイスをしたり、補助したりするなどみんなで授業に取り組むという姿勢があまりみられない。</li> <li>・運動が好きな生徒と嫌いな生徒の二極化があり、課題への取り組みに差がみられる。</li> <li>・自分のことだけでなく、周りの生徒と協力して準備や片付けなどを行うことができない生徒が数名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意な生徒に模範演技をさせるなどの役割をもたせる。うまくできない生徒をみんなで盛り上げようとする雰囲気をつくる。</li> <li>・個々の能力に応じた活動場所を設け、生徒が自己の課題に向けて努力できるようにする。</li> <li>・準備や片付けでは、役割を与え一人一人に責任感をもたせる。準備や片付けも大切な活動という意識をもたせる。</li> </ul>	

平成30年度 【保健体育（女子）】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しを最後まで聞かずに行動しようとする生徒が多い。</li> <li>・自己中心的考えから、仲間と協力して運動することができない生徒がいる。</li> <li>・言語理解に欠ける生徒へ配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しを聞く姿勢を繰り返し指導し、集中させる。</li> <li>・仲間と協力して運動することの大切さや楽しさを伝えていく。そのための声かけを常に行っていく。</li> <li>・文字や絵、模型を提示し、理解させる。</li> </ul>	
2 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲をもって運動する生徒が多い。しかし、仲間に対しての要求も強くなり、思いやりに欠ける場面や自己中心的な考え方を示す場面が見られる。</li> <li>・集中力が続かない生徒が数人いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに、思いやりをもって協力し合うことを常に伝えていく。</li> <li>・人数も少ないので、場面展開を多くして集中力がきれないように工夫する。</li> </ul>	
3 年 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲をもって行動する生徒が増えてきたが、苦手意識から、まだ人まかせに行動する生徒がいる。</li> <li>・お互いに声を掛け合いながら協力したり、アドバイスしあったりする場面が多く見られるようになったが、生徒間で温度差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な種目であっても、率先して行動できる環境（チーム編成など）を作っていく。</li> <li>・各自の良さを認識させ、みんなで声かけをしあえる雰囲気を作っていく。</li> </ul>	

平成30年度【技術】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

学年	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作に対する興味関心は高い。今までの製作経験が不足しているため、基本的技術が十分に伴っていないことや計画的な製作が苦手と思われる。</li> <li>・作品製作経験が少ないので、自分の思いや考えを製作内容にどうやって取り入れたらよいかに苦手意識があると考ええる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作に対する興味関心が高いため、つまずきを想定しながら、リカバリーできる時間や材料の態勢を整えておき、対応していく。</li> <li>・過去の作品を写真で紹介したり、班員と相談しながら作業を考える時間を設けたりして、構想をまとめやすくする。</li> </ul>	
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気に対する苦手意識がある生徒が多い。</li> <li>・製作意欲はあるが、製作物に対するデザイン上の創意工夫が乏しい生徒が多い。</li> <li>・作品製作経験が少ないので、道具や工具の扱いに苦手意識がある生徒も若干いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報黒板を活用し、視覚的にわかりやすい説明を心がける。家庭生活との関わりを大切にする。</li> <li>・過去の作品を写真で見せ、それを参考にしながら、自分のデザインを深めさせる。</li> <li>・新たに使う工具を扱う場面を多くする。また、1年次で学習した道具や機械を使った加工も取り入れて、技術力の定着を図る。</li> </ul>	
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められて作業をすることはよいが、与えられた課題をどう解決していけばよいのか、自分で考えたり、計画したりすることに苦手意識がある生徒が多い。</li> <li>・生物育成についての関心は低く、身近に植物を栽培した経験も少ない生徒が多い。</li> <li>・コンピュータを操作することは好きだが、情報機器を活用して、自分の考えを表現したり発信することに苦手意識がある生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の完成イメージを知らせ、自分たちで考え、計画し、形作る時間をできるだけ多くする。すぐに答えを聞きたがるので、こちらからの情報はヒントとして、班内で情報交換をしながら、自分たちで課題を解決できるようにさせる。</li> <li>・身近な野菜や草花作りを通して、実体験をさせることで、生物育成に興味関心を高めさせていく。</li> <li>・作品づくりや情報機器等を学ぶ中で、自己表現をする場面を意図的に計画し、苦手意識を少なくする。</li> </ul>	

# 平成30年度【家庭科】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

学年	課題の分析	授業改善の視点	成長と課題
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣生活は身近な課題の分野で関心をもち授業に取り組む生徒が多い。</li> <li>・基礎的な技術の習得や道具の扱い方が苦手な生徒も少なくないため作業の到達度に差が出てしまう。</li> <li>・習得した知識や技術を実生活で活用することで定着できるが、その機会をもてる生徒が少ないように見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前授業の復習を必ず行い、本授業との内容や目標とのつながりを明確にし、更なる知識・技術の定着を図る。</li> <li>・小グループ、個別指導を行いきめ細かい指導を行うことで技術の向上を図る。</li> <li>・グループ学習で協力し合い相互の技能の向上を図るとともに、実生活で活用できる課題を設定し作業経験を増やせる工夫をする。</li> </ul>	
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長期の食生活に関心を持ち自分の生活におきかえて考えるなど、授業に関心をもち意欲的に取り組む生徒が多い。</li> <li>・調理器具の扱い方や作業経験が不足している生徒が少なくないため技術差が大きく到達度に差が出てしまう。</li> <li>・習得した知識や技能を実生活で生かそうとする意欲には個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活の知識・技能の習得の重要性を高め、生活に生かせる能力を養う。</li> <li>・調理実習や家庭での体験学習の課題を設定し、練習の機会を増やすことで基礎的な知識・技能の定着を図り技術差を改善していく。</li> <li>・中学生の食生活の課題を設定し結果をレポートにまとめ発表・考察し合い創造力や発想力を広げられるように指導する。</li> </ul>	
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の生活と家族の分野では自分の幼い頃を振り返りながら学習していくので関心をもち取り組む生徒が多い。</li> <li>・基礎的な知識の習得が出来ている生徒は多いが、応用・発展させて考えようとする能力には個人差がある。</li> <li>・保育分野では幼児との触れ合いを生活の中で経験することの少ない生徒も多く課題や実習の中で差がでている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識を生かし応用・発展させて考える課題を取り入れ関心を高めていく。</li> <li>・課題レポートや製作した作品を発表したり鑑賞し合うことで相互に考察し表現力や思考力、想像力を高めさせる工夫をする。</li> <li>・保育実習など体験学習で試行錯誤する中で、問題解決の方法に授業で得た知識を応用できるよう指導していく。</li> </ul>	

平成 30 年度 【外国語（英語）】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

学年	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1 年 生	<p>①小学校外国語活動で身に付けた力をベースに、音声を聞き、意味を理解し応答できる。3 文以上のまとまった内容を理解することが課題。</p> <p>②質問に対して1～2 文の応答ができる。話した英文を正しく書けることが課題である。</p> <p>③8～10 文程度の自己紹介スピーチができる。10 文以上で写真等を使って説明(Show &amp; Tell)できることが課題である。</p> <p>④文字の名前、形を 90%以上の生徒が正しく理解し、書くことができる。正しく発音し、音とスペリングの関係に気づき、書けることが課題である。</p> <p>⑤80%以上の生徒が、語句の意味、文構造を正しく理解している。語順、語形、応答の仕方のがいを理解することが課題である。</p> <p>⑥教科書本文の音読筆写、ワークブックによる言語材料を確認する課題を行っている。家庭学習が習慣化されていない生徒も見られる。</p>	<p>◆英語の授業は英語で行う</p> <p>①教科書本文と新出の文構造は、英語による口頭導入(oral introduction)を行う。本文の導入で、聞き取りや読み取りのポイントを明示し、意味を類推する力を付けさせたい。</p> <p>②やりとりのスピーキング活動を帯活動で実施し、やりとりをする能力を高めたい。</p> <p>③2～3 の単元ごとにスピーチ、リプロダクション、スキット等のプロジェクト的な言語活動を実施し表現力を高めたい。</p> <p>④1 時間の授業で、教科書の音読を 5～7 回行う。</p> <p>⑤本文と新出文構造とを関連付け、英語を使う活動を定着につなげる。単元末に文構造を学習させるための教材を作成する。</p> <p>⑥音読筆写、ワークブックによる家庭学習課題を継続的に実施する。</p>	
2 年 生	<p>①英語を聞き、絵や写真等を手がかりに意味を理解し、内容に関する質問に単文で応答することができる。3～4 文以上の内容を理解できることが課題である。</p> <p>②単文での応答はできるが、2 ターン程度の会話の継続、話した英文を正しく書けることが課題である。</p> <p>③10～15 文程度で絵、写真等を使って説明(Show &amp; Tell)できることが課題である。</p> <p>④音とスペリングの関係を理解し、文字を見て語句や文を正しく発音して書けるようになることが課題である。</p> <p>⑤70%以上の生徒が、語句の意味、文構造(語順)を正しく理解しているが、トピックを決めて、自由に作文する力が十分ではない。</p> <p>⑥音読筆写、ワークブックによる文構造と語彙の確認が家庭学習課題であるが、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が見られる。</p>	<p>◆英語の授業は英語で行う</p> <p>①英語による口頭導入を基本とする。文構造の導入では、教師の説明を少なくし、生徒同士の interaction で意味と形が確認させる。本文の導入時に、聞き取り読み取りの task を設定し、意味内容を類推する力を身に付けさせたい。</p> <p>②会話継続のコミュニケーション活動を実施し、応答、発話能力を高める。</p> <p>③3～4 単元ごとにスピーチ、リプロダクション、スキット等発表を行い、表現の幅を広げたい。</p> <p>④1 時間で教科書の音読を 5～7 回行う。(意味を理解させた後に行う)。</p> <p>⑤英語を使う活動を言語材料の定着につなげる。単元末に文構造を体系的に学習させる教材を工夫して作成する。スピーキング活動を基本に、ライティング活動につなげる指導の工夫を行いたい。</p> <p>⑥音読筆写、ワークブック等による家庭学習課題を継続的に実施し、学習状況の確認を行う。</p>	
3 年 生	<p>① 連絡帳に毎日日記を英文で書かせたことで英文の書き方にはだいぶ慣れ、簡単な自己表現ならば書けるようになったが、接続詞などを使用し文をつなげることはまだできない。</p> <p>② 既習の英語を使って自己表現をする力が不十分な生徒が多い。</p> <p>③ 65語程度の長さの英語の会話文を読んで意味を理解しようとする態度が身につけていない生徒が多い。</p> <p>④ 少し早いスピードで発話された英語の内容を聞き取ることに慣れていない。</p>	<p>① 1つのことについて2～3文で意味が連続する文を書くことができるように、会話でのやり取りから入り、それを自己表現の形で授業中にノートに書かせる。</p> <p>② 授業で習う新しい表現を引き続き各自の内容で使わせる。</p> <p>③ 毎時間、5分程度で80語前後のまとまりのある内容を読ませ、4つの質問に英語で答える読解問題をし読解力をつける。</p> <p>④ 比較的簡単な英語のニュースや物語を聞き、質問形式でその内容を把握させる。</p>	